

第122期 中間報告書

2013年4月1日 ▶ 2013年9月30日

CONTENTS

株主の皆様へ…1

領域別および製品・商品別の概況…3

研究開発の状況…5

財務諸表の概要…7

株式の状況…9

会社の概要…10



鳥居薬品株式会社

証券コード 4551

株主の皆様へ



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
第122期第2四半期累計期間の経営成績につきましてご報告いたします。ご高覧頂きますようお願いいたします。

当社は今後とも「世界に通用する医薬品を通じて、お客様、株主、社会、社員に対する責任を果たすとともに、人々の健康に貢献する」という企業ミッションのもと、持続的成長の実現に向け、全社一丸となって取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

2013年12月

代表取締役社長 **高木正一郎**

Q 経営成績についてお聞かせください。

A 主に重点領域として掲げる「腎・透析領域」「HIV領域」の売上が伸長したことにより、増収・増益となりました。

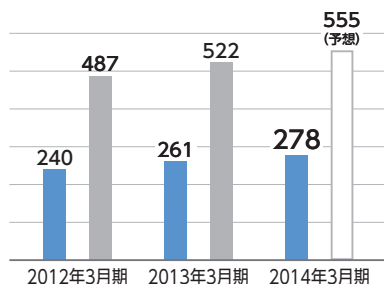
当第2四半期累計期間の経営成績につきましては、売上高は27,858百万円と前年同期に比べ1,699百万円(6.5%)増加しました。

主要な製品・商品の販売状況につきましては、「レミッチカプセル(血液透析患者における経口そう痒症改善剤)」は6,753百万円と前年同期に比べ856百万円(14.5%)増加したほか、「ツルバダ配合錠(抗HIV薬)」は6,206百万円と前年同期に比べ535百万円(9.4%)増加しました。また、本年5月に販売を開始しました「スタリビルド配合錠(抗HIV薬)」については313百万円となりました。

決算ハイライト ■ 第2四半期(累計) ■ 通期 (単位: 億円)

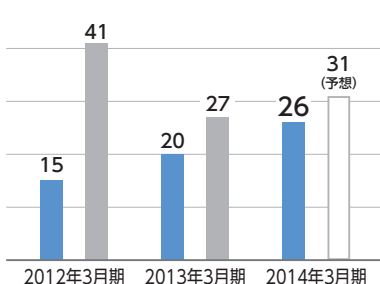
売上高

第2四半期(累計)実績
278億円 前年同期比6.5%増



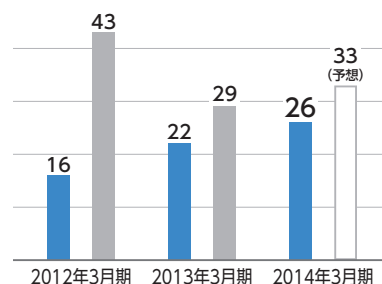
営業利益

第2四半期(累計)実績
26億円 前年同期比24.6%増



経常利益

第2四半期(累計)実績
26億円 前年同期比19.9%増



費用面におきましては、売上原価は売上高が増加したことに加え、販売品目の構成が変化したことにより12,174百万円と前年同期に比べ971百万円(8.7%)増加し、販売費及び一般管理費は研究開発費が減少したものの、販売促進費等が増加したことにより13,082百万円と前年同期に比べ213百万円(1.7%)増加しました。

以上の結果、営業利益は2,601百万円と前年同期に比べ513百万円(24.6%)増加し、経常利益は2,684百万円と前年同期に比べ444百万円(19.9%)増加しました。四半期純利益につきましては1,562百万円と前年同期に比べ279百万円(21.7%)増加しました。

Q 通期の業績予想についてお聞かせください。

A 販売費及び一般管理費が計画より減少する見込みとなったことから、利益面では前回予想を上回る見通しとなりました。

通期の業績予想につきましては、当第2四半期累計期間の業績を踏まえ、第121期報告書でご報告した予想数値を

修正しております。

売上高は、前回予想を変更しておりませんが、利益面におきましては、販売費及び一般管理費が計画より減少する見込みとなったことから、営業利益、経常利益、当期純利益ともに前回予想を上回る見通しとなりました。

現時点における通期の業績予想数値は、売上高は555億円(前回予想のとおり)、営業利益は31億円(対前回予想14.8%増)、経常利益は33億円(対前回予想17.9%増)、当期純利益は19億円(対前回予想11.8%増)を見込んでおります。

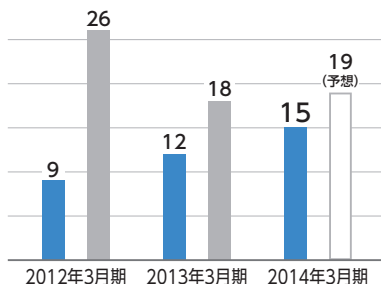
なお、本年4月に公表した「中期経営計画(2013年度-2015年度)」の目標達成に向けて、新製品の早期浸透、既存品のシェア拡大による業績向上に注力するとともに、アレルギー領域の研究開発につきましても、引き続き推進してまいります。

Financial Highlights

四半期(当期)純利益

第2四半期(累計)実績

15億円 前年同期比21.7%増



◆ 配当について

配当方針

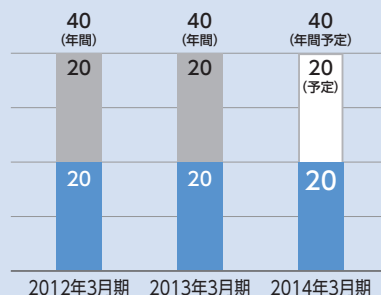
当社は、株主の皆様への適正な利潤の還元を経営の重要課題の一つと認識し、剰余金の配当につきましては、安定的かつ継続的に実施することを基本方針としております。

上記基本方針の下、経営体質の強化や将来の事業展開等を勘案した中長期的な視野に立った投資等を行うことに備えつつ、株主の皆様へ安定的還元を行うことを目指します。

● 中間配当支払開始予定日 12月6日

1株当たり配当金

■ 中間配当 ■ 期末配当 (単位:円)

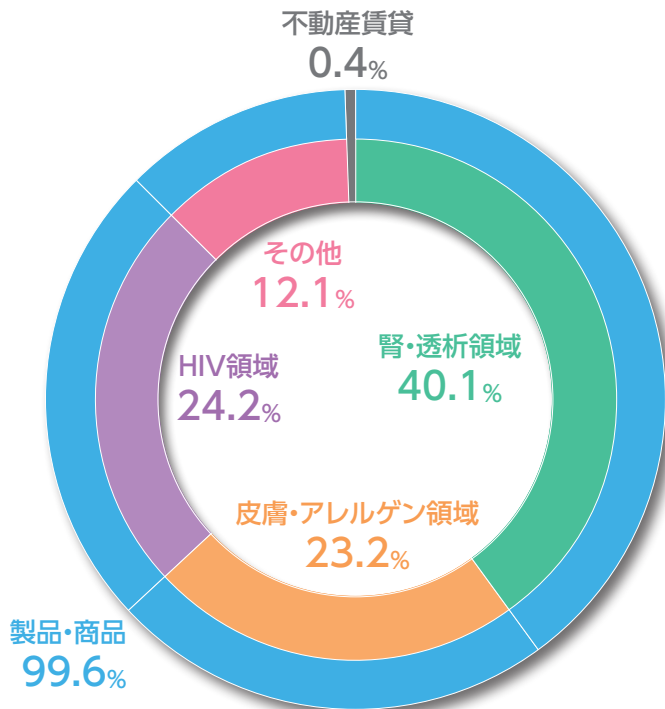


領域別および製品・商品別の概況

領域別売上高

(単位：百万円)

	2013年3月期 第2四半期(累計)	2014年3月期 第2四半期(累計)
売上高	26,158	27,858
製品・商品	26,044	27,745
腎・透析領域	10,538	11,185
皮膚・アレルギー領域	6,196	6,466
HIV領域	5,923	6,729
その他	3,385	3,364
不動産賃貸	114	112



主要製品・商品のご紹介

レミッチカプセル

経口そう痒症改善剤



血液透析患者の既存治療抵抗性の痒み(従来の止痒薬では効き目が不十分な痒み)を改善する薬剤です。

注射用フサン

蛋白分解酵素阻害剤



急性肺炎や汎発性血管内血液凝固症を治療する薬剤です。また、血液透析などの血液浄化療法を施行する際に回路内で血液を固まらないようにする薬剤でもあります。

ユリノーム錠

尿酸排泄薬(高尿酸血症治療剤)



体内で増えた尿酸を尿中に排泄して高尿酸血症を改善する薬剤です。

製品・商品別売上高 (単位: 百万円)

品名	2013年3月期 第2四半期(累計)	2014年3月期 第2四半期(累計)
レミッチカプセル	5,896	6,753
ツルバダ配合錠	5,671	6,206
アンテベート ^{※1}	3,403	3,655
注射用フサン ^{※1}	2,241	2,037
ユリノーム錠 ^{※1}	1,443	1,261
ケイキサレート ^{※1}	957	1,134
ビオスリー	900	993
ゼフナート	930	952
ドボネックス軟膏	966	934
ロコイド ^{※1}	694	714
マグセント	636	637
スタリビルド配合錠 ^{※2}	—	313
その他製商品	2,302	2,152

※1 自社品

※2 「スタリビルド配合錠」は、本年5月から販売を開始しております。

アンテベート

外用副腎皮質ホルモン剤



アトピー性皮膚炎や接触皮膚炎などの皮膚疾患に対して炎症を抑えることによって症状を改善する薬剤です。

ツルバダ配合錠

抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬)



HIV逆転写酵素を特異的に阻害することによりHIVの増殖を阻害する薬剤です。

スタリビルド配合錠

抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬)



4成分を配合した抗HIV薬で、国内で初めて、他剤と併用しない1日1回1錠の服薬でHIV感染症の治療が可能となります。HIV-1のインテグラーゼおよび逆転写酵素の活性を阻害し、感染力のあるウイルスの増殖を抑える薬剤です。

研究開発の状況

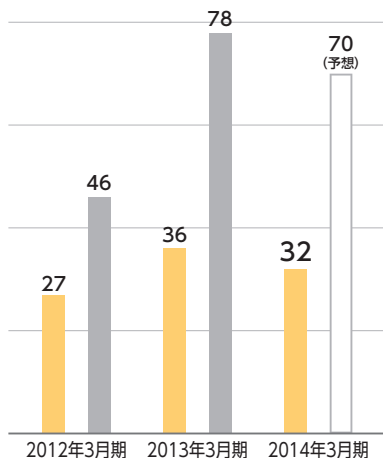
主要な研究開発の状況につきましては、右図表の通りとなっています。

第121期報告書でご報告して以降の変更点としましては、ALK-Abelló A/S (以下、ALK社)から導入したアレルギー検査薬「TO-205」につきまして、国内第Ⅲ相臨床試験を開始した他、スギ花粉症に対する舌下投与による減感作(免疫)療法薬につきまして、「TO-206」(舌下錠)の国内第I相臨床試験を開始し、さらに、日本たばこ産業株式会社(以下、JT)と共同で開発を進めておりますヒスタミン二塩酸塩製剤「JTE-350」につきまして、国内第Ⅲ相臨床試験を開始しております。

なお、当第2四半期累計期間の研究開発費の総額は3,252百万円となりました。

研究開発費の推移

■ 第2四半期(累計) ■ 通期 (単位:億円)



用語解説

げんかんざ(めんえき)りょうほう

● 減感作(免疫)療法とは?

アレルギーの原因抗原を、少量から徐々に増やしながら継続して投与することで、アレルギー反応を減弱させて症状を出にくくさせる治療法です。

日本では現在、注射による治療のみが健康保険の適応となっています。当社では、より利便性の高い舌下投与による減感作(免疫)療法薬の開発に取り組んでいます。



主要な研究開発品 (2013年10月31日現在)

開発番号	予定適応症等
JTT-751	高リン血症

腎・透析領域

アレルギー領域

TO-194SL	スギ花粉症 (減感作(免疫)療法薬)
TO-203	ダニを抗原とするアレルギー疾患 (喘息およびアレルギー性鼻炎) (減感作(免疫)療法薬)
TO-204	ダニを抗原とするアレルギー疾患 (喘息およびアレルギー性鼻炎) (減感作(免疫)療法薬)
TO-205	アレルギー性疾患のアレルゲンの 確認 (アレルゲン検査薬(ダニ))
TO-206	スギ花粉症 (減感作(免疫)療法薬)
JTE-350	アレルギー皮膚テスト実施時の陽 性コントロール(ヒスタミン二塩酸 塩製剤)

※ 厚生労働省主催の「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会

▶Phase I (第I相臨床試験) …少数の健康な方を対象として、治験薬の安全性を確認します。

▶Phase II (第II相臨床試験) …少数の患者さんを対象として、治験薬の有効性及び安全性とともに、投与する量や方法などを確認します。

▶Phase III (第III相臨床試験) …多数の患者さんを対象として、治験薬と既存薬またはプラセボ(偽薬)との比較試験により、有効性及び安全性を確認します。

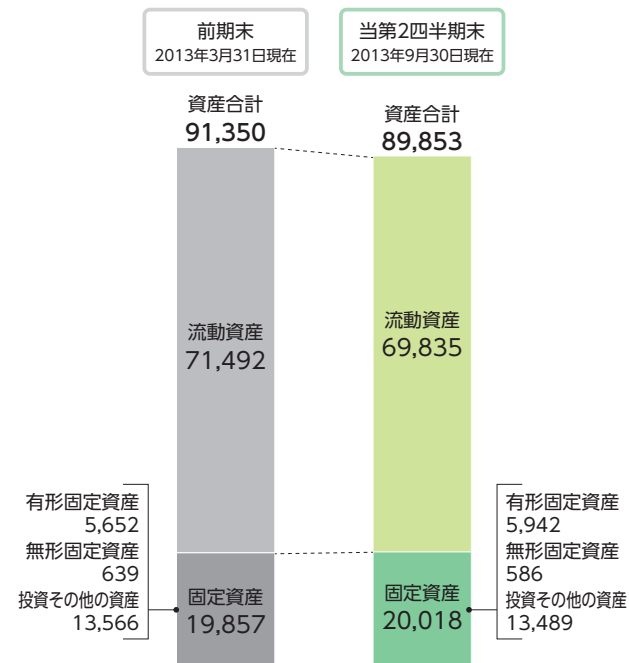
剤形等	開発段階(国内)					備考
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認	
経口剤		申請		申請		<ul style="list-style-type: none"> ● Keryx Biopharmaceuticals, Inc.と日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結 ● JTとの共同開発 ● JTが2013年1月7日に製造販売承認申請
舌下液			申請	申請		<ul style="list-style-type: none"> ● 自社開発 ● 2012年12月25日に製造販売承認申請
舌下錠	Phase II/III					<ul style="list-style-type: none"> ● ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ● 自社開発
注射剤			Phase III			<ul style="list-style-type: none"> ● ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ● 自社開発
注射剤			Phase III			<ul style="list-style-type: none"> ● ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結 ● 自社開発
舌下錠	Phase I					<ul style="list-style-type: none"> ● 自社開発
注射剤			Phase III			<ul style="list-style-type: none"> ● ALK社と日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結 ● JTとの共同開発

議川における開発企業募集品であります。

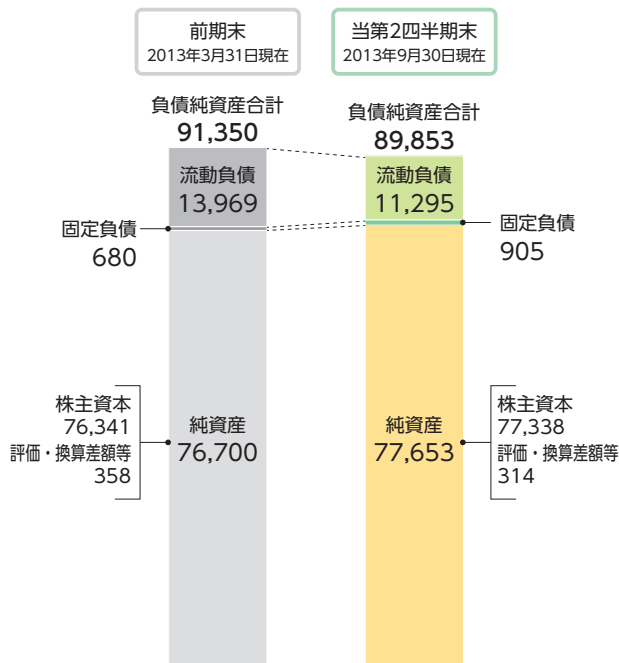
財務諸表の概要

貸借対照表の概要 (単位：百万円)

資産の部



負債・純資産の部



●資産の状況

当第2四半期会計期間末の総資産は、89,853百万円と前事業年度末に比べ1,496百万円(1.6%)減少しました。これは、キャッシュ・マネージメント・システム預託金が17,861百万円、受取手形及び売掛金が1,124百万円増加しましたが、有価証券が15,588百万円、現金及び預金が5,566百万円減少したこと等によるものです。

●負債及び純資産の状況

負債につきましては、12,200百万円と前事業年度末に比べ2,449百万円(16.7%)減少しました。これは、流動負債のその他に含まれる未払金が3,135百万円減少したこと等によるものです。

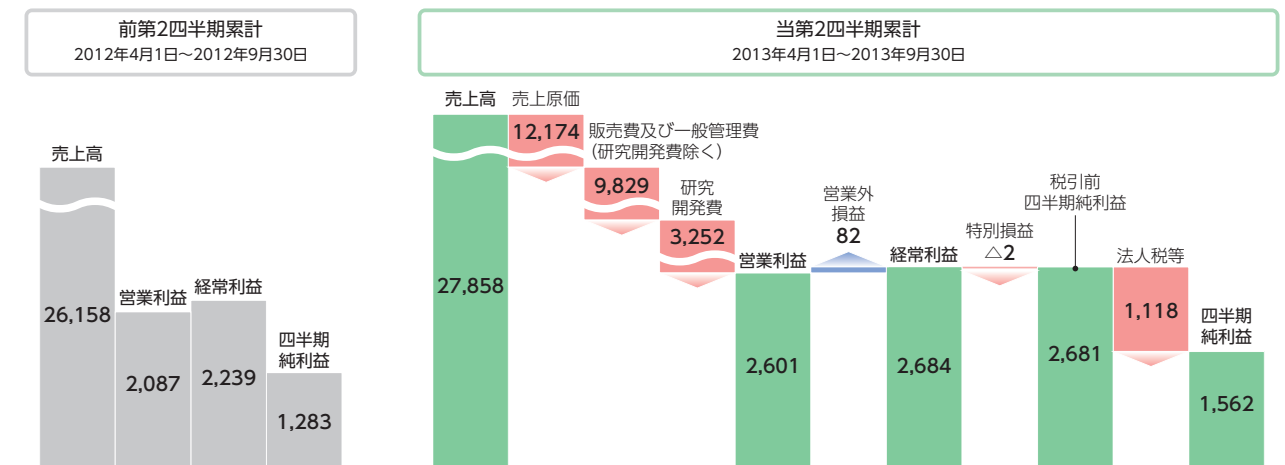
純資産につきましては、77,653百万円と前事業年度末に比べ952百万円(1.2%)増加しました。これは、主に利益剰余金が996百万円増加したことによるものです。

Overview of Financial Statements

▶▶▶ 詳しい財務情報は当社IRサイトをご覧ください。 URL:<http://www.torii.co.jp/ir/index.html>

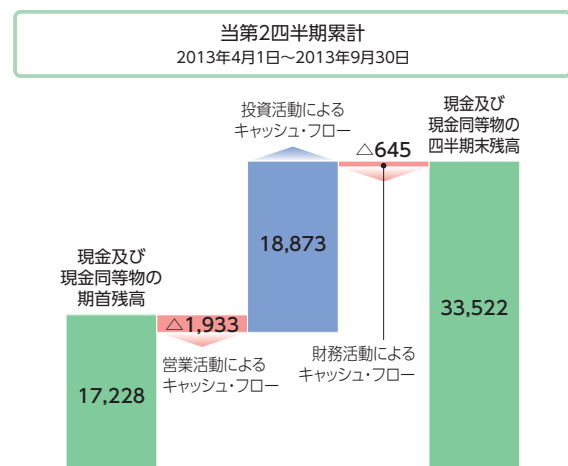
損益計算書の概要

(単位：百万円)



キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



●キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、33,522百万円と前事業年度末に比べ16,294百万円(94.6%)増加しました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期純利益が2,681百万円となりましたが、未払金の減少額が3,192百万円、売上債権の増加額が1,124百万円となったこと等により1,933百万円の支出となりました。(前第2四半期累計期間は157百万円の支出)

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の売却及び償還による収入が19,600百万円となったこと等により18,873百万円の収入となりました。(前第2四半期累計期間は442百万円の収入)

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払額が566百万円となったことにより645百万円の支出となりました。(前第2四半期累計期間は574百万円の支出)

株式の状況

Stock Information

(2013年9月30日現在)

株式数

発行可能株式総数	54,000,000株
発行済株式総数	28,800,000株

株主数

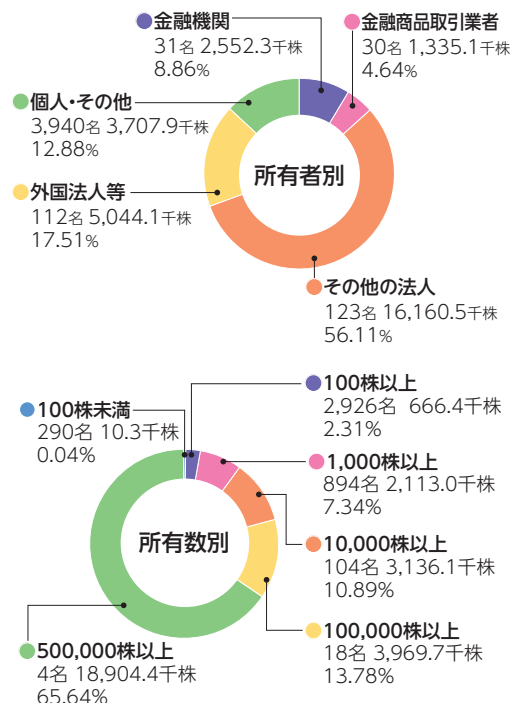
株主数 (単元未満株主を含む)	4,236名
-----------------	--------

大株主

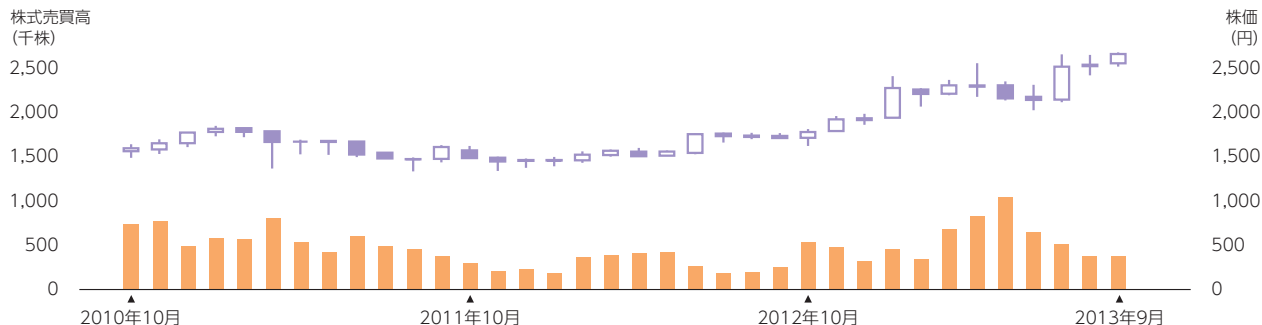
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本たばこ産業株式会社	15,398.8	53.46
ロイヤルバンクオブカナダトラストカンパニー(ケイマン)リミテッド	1,731.7	6.01
立花証券株式会社	1,148.7	3.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	625.2	2.17
CGML-IPB CUSTOMER COLLATERAL ACCOUNT	445.6	1.54
株式会社三井住友銀行	340.8	1.18
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	302.8	1.05
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシーリユーエス タックス エグゼクティブペンションファンズセキュリティレンディング	297.8	1.03
ゴールドマンサックスインターナショナル	268.3	0.93
鳥居薬品従業員持株会	260.3	0.90

(注)上記の他、当社が保有する自己株式数は499.2千株(持株比率1.73%)であります。

株式分布状況



株価および株式売買高の推移 (2010年10月～2013年9月)



会社の概要

(2013年9月30日現在)

会社概要

商号	鳥居薬品株式会社
設立	1921年(大正10年)11月1日
資本金	5,190百万円
主要な事業内容	医薬品の製造・販売
従業員数	1,050名 (注)従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人数であります。
本社	〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1 トリイ日本橋ビル TEL:03-3231-6811(代表)
主な事業所	札幌支店、仙台支店、北関東支店(高崎)、 南関東支店(さいたま)、東京支店、横浜支店、 名古屋支店、京都支店、大阪支店、神戸支店、 高松支店、広島支店、福岡支店、 南九州支店(熊本)、佐倉工場、 研究所(佐倉工場内)

役員

取締役・監査役

取締役会長	松尾 紀彦	取締役	假屋ゆう子
代表取締役社長	高木正一郎	取締役	鳥養 雅夫
代表取締役副社長	金谷 宏	常勤監査役	長 誠次
専務取締役	籠橋 雄二	常勤監査役	矢部 昌平
常務取締役	田村 明彦	監査役	會澤 恒
常務取締役	梅田 高弘		

執行役員

執行役員	林 秀岳	執行役員	末吉 廣忠
執行役員	相川 由幸	執行役員	藤原 勝伸
執行役員	古谷 幸友	執行役員	太田 尚
執行役員	千葉 昌	執行役員	野田 優

(注)1. 取締役 鳥養 雅夫は、社外取締役であります。

(注)2. 監査役 長 誠次、會澤 恒は社外監査役であります。

(注)3. 取締役 鳥養 雅夫、監査役 會澤 恒は東京証券取引所の規則に定める独立役員として同取引所に届け出ております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会・期末配当:毎年3月31日 中間配当:毎年9月30日
公告方法	日本経済新聞に掲載
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先(電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

◆ ホームページのご案内

当社ホームページの「株主・投資家の皆様へ」では、決算短信等のIR情報をご覧いただけます。

<http://www.torii.co.jp/ir/index.html>



将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載しております業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。したがって、実際の業績等は、様々な要素により、これらの業績見通し等とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に当社が、将来の見直しを見直すとは限りません。

なお、現時点において、実際の業績等に影響を与えるリスクや不確実な要素としては、以下のような事項を挙げることであります。(かかるリスクや不確実な要素はこれらの事項に限定されるものではありません。)

- 薬事法その他の法令または規制の変化
- 薬価の改定
- 副作用の発現
- 研究開発の遅延または中止
- 製商品の供給停止
- 訴訟の提起



鳥居薬品株式会社

〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1 トリイ日本橋ビル
TEL 03-3231-6811 (代表)

